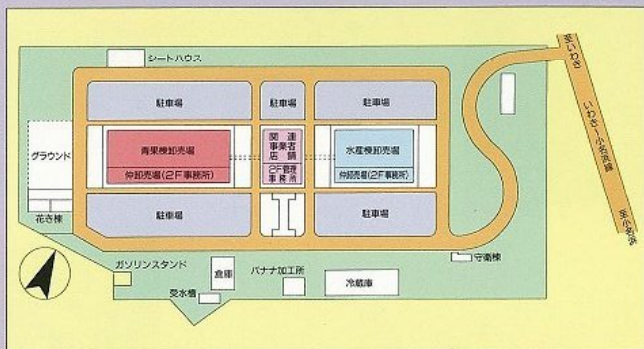




いわき市の位置と地勢

いわき市は、福島県浜通り東南端に位置する臨海都市。温暖な気候に恵まれたこのまちは、面積1,230.95km²という、市としては日本一の広さを誇っています。東には国際港である小名浜港をはじめ7つの港を持ち、工業・水産業の要所として名高く、西には阿武隈山系の支脈が立ち並び、豊かな水源地を形成しています。また、同市では、国道6号線とJF常磐線が太平洋に沿って南北に縦断し、中央部を国道49号線と磐越東線が横断、加えて常磐自動車道、磐越自動車道の開通に伴い、首都圏および福島県各地へのアクセス時間が大幅に短縮されるなど、交通面でも著しい発達を見せています。今後ますますの生活・商工業の発展が予想される中、臨海工業団地・好間中核工業団地・いわきニュータウンなどの開発も進められ、豊かで住みよいまちの形が着々と姿を見せてはじめています。



株式会社平果の概要

- 商号 株式会社 平果
- 創立 昭和51年11月22日
- 営業内容 野菜・果実及びその加工品の委託販売、並びにこれらの買付及びその卸売
- 所在地 〒971 福島県いわき市鹿島町鹿島1番地
- 資本金 80,000千円
- 沿革 当社は昭和51年に法人として設立され、昭和52年9月に全国で50番目の中央市場として誕生したいわき市中央卸売市場の開場に伴い、営業を開始しました。

施設と設備

- 敷地の面積 209,186.97㎡
- 建設費 5,710,000千円

	敷地面積	青果	水産	花き
卸売場	11,932㎡	7,186㎡	4,081㎡	665㎡
仲卸売場	3,239㎡	1,697㎡	1,416㎡	126㎡
買荷保管積込所	4,349㎡	2,482㎡	1,740㎡	127㎡
駐車場所	29,348㎡	1600台収容		
倉庫	1,690㎡	シートハウス含む		
バナナ加工所	668㎡	13室		
関連商品売場	1,729㎡	24店舗		

いわき市中央卸売市場の機構

- 開設者 農林大臣の認可を受けて開設し、施設の維持管理及び卸売業者や仲卸業者、売買参加者が公正な取引をするよう指導・監督を行います。
- 卸売業者 農林大臣の許可を受けて、全国各地の生産者・出荷者から委託又は買付により集荷し、これをせり売り・相対売りで仲卸業者や売買参加者に販売します。
- 仲卸業者 市長の許可を受けて、せり売り・入札売りに加わって評価し、これを買取って市場内の店舗で買出人等に、細かい単位で販売します。
- 売買参加者 小売商・加工業者・大口需要者等のうち、市長の承認を受けて卸売業者のせり売り・入札売りに参加します。
- 買出人 小売商等のうちで、仲卸業者から品物を購入します。
- 付属営業人 市場を利用する人々の利便を図るために、市長の許可を受けて場内の店舗で業務を営みます。

〒971 福島県いわき市鹿島町鹿島1番地

株式会社 **平果**

TEL 代表 0246(29)6211
果実 0246(29)6239
蔬菜 0246(29)6239
FAX 0246(29)6220



とどく、広がる、大地の恵み。

いわき市中央卸売市場
株式会社 **平果**

とどく、広がる、大地の恵み。

ごあいさつ

いわき市中央卸売市場は、昭和52年9月に開場致しました。

敷地21万㎡、総工費57億円を投じた当市場は、いわき市を含めた当地方に於ける唯一の公設生鮮品卸売市場として、茨城県北部から福島県浜通り一帯、約100万人の消費者に対し四季を通じて青果物、水産物、花き等の供給を果して居ります。

当社は、当市場に於ける単一の青果卸売会社でありまして、青果物全般に関する集荷及び販売を担当して居りますが、公設市場の卸売会社として、その期待される責

任は大きく、毎日の業務を通じて青果物の需給の安定、公正な価格の実現の為に、努力を重ねて居るところであります。

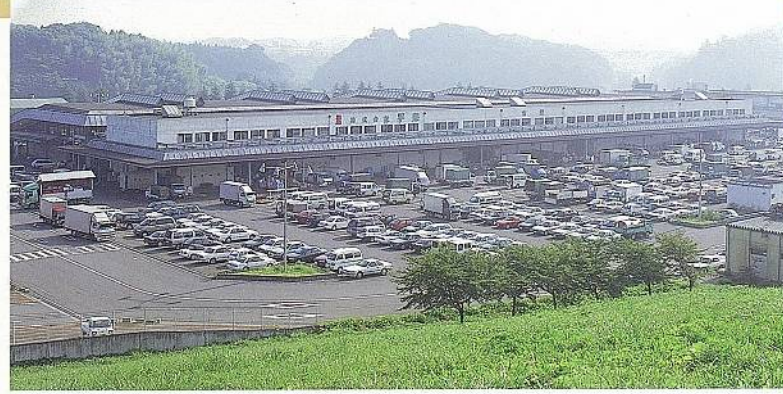
青果物の需要に関しましては、これからも時代と共に変化を重ねて行く事と思いますが、私共は絶えざる業務上の研鑽の中で、常に生産と消費両面のよき媒介者として、市民消費生活の安定と農業生産振興の為に盡力して参りたいと思っております。

皆様の御引立と御指導をお願い致します。

株式会社 平 果



代表取締役社長
鈴木 光榮



21万㎡の広大な敷地は、「いわき」の食を支える大きな台所。全国各地から届く新鮮な食材と繁華の熱気に包まれています。



卸売業者は、目まぐるしく変化する消費者のニーズと必要量を正しく把握し、適正な集荷に努めます。また、農作物は季節や天候に左右されやすいという性格を持っていますので、全国各地の生産者と入荷についての連絡を密に取りあうことも、大切な仕事のひとつ。

言わば、生産者と消費者の橋渡しの役割を担っているわけです。“必要なものを、必要なときに、必要なだけ集荷”することを基本として、消費者への安定供給のために、様々な努力が払われています。

1日の流れ

生産者



入荷

配列・下見



せり売り・分荷販売



事務処理



消費者



2. 配列・下見



全国各地から集荷した大量の品物は、7,186㎡の面積を持つ青果卸売場へ品目別、種類別に配列されます。多種多様な品物が、この広い空間を鮮やかに彩り埋めつくす様は圧巻。仲卸業者や

3. せり売り・分荷販売



せり売りは、買手である仲卸業者や売買参加者が値段をつけあい、最高値が価格となり、ここで初めて品物の値段（卸売価格）がきまります。威勢のいい掛け声が飛び交う中、せり落とされた品物は、落札者に引き取られ、買出入が買いやすいように仲卸店舗で陳列し販売されたり、市内の店舗で一般の消費者のみなさんに売られます。

4. 事務処理



様々な過程を経て売買される大量の品物——これを陰で支えているのが、平果のバックオフィスです。コンピュータシステムで、その日の入荷・売買取況をリアルタイムにとらえ、スムーズな業務運行を可能にしています。